

# 緑の相談所だより

-第36号-

{10, 11月号 1995. 10. 1発行 編集: 旭川市緑の相談所}

月	日	期	講習会内容	講師	額
10	8	午後	着生ランと地生ランの特色 (生態の違いを知り洋ランを上手に 作ろう)	旭川市緑の相談所 相談員 本郷 仁	60
10	22	1時	庭木類の冬囲い (冬囲いの必要性和囲い方)	旭川市緑の相談所 相談員 小島博昭	60
11	12	↓	室内でのアザレア、シクラメンの 咲かせ方 ※なおご希望の方には教材用として シクラメン500円(15株) アザレア350円(35株) にて販売いたします。	道立旭川農業高等学校 教諭 高橋 寿幸氏	50
11	26	3時	冬の鉢物管理 (観葉植物、鉢花などの温度管理、 水やりなどほか)	フラワーマスター 村田 正一氏	60

◆いずれも参加料は無料。

◆お申し込み・お問い合わせ 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

植  
物  
ひ  
と  
く  
ち  
話



ハギ

花ことば…思案 内気

別名…鹿鳴草、鹿妻草、玉見草、庭見草、初見草など。

秋の七草の筆頭に上げられるほど日本人に好まれる花です。生活のかかわりも単に花木として観賞するにとどまらず、枝は籠などの細工物の原料に、葉は茶の代用に、乾燥させた根は煎じて薬用(めまい、のぼせ)にも使われました。その他家畜の飼料、土手の土止めにもされてきました。

## 両端いだけけの植物いじり

### 農薬による防除編 その1

◎一種類の農薬で植物の病気と害虫の両方を防除出来ますか。

※いいえ、ふつう一つの薬剤で病気、害虫などどのような症状にも効く万能薬などありません。

植物の生育期間中におきる病気、害虫のトラブルに対処するためには、病気は病気の、害虫は害虫の農薬を使い、しかも病気、害虫の種類、症状に合った農薬を使うのが正しい農薬の使い方の一つです。



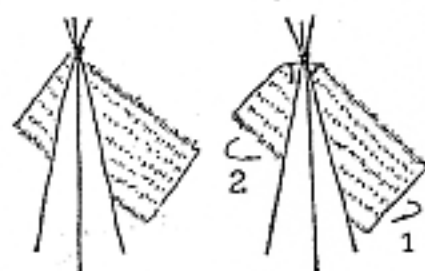
### 冬囲い編 その1

◎庭木類の冬囲いは、寒害や雪の被害にあうので木の下までがっちり囲った方が良いのですか。

※過度な冬囲いはムレにつながり枯死につながる場合があります。

寒害から庭木類を守るためであれば、春先の雪どけ時期に雪の上を吹いてくるつめたい風を防ぐことを考えれば良いことになりますので、地表面までのムシロでの冬囲いは必要ありません。特にビニール、ダンボール、新聞紙等による冬囲いはしないことです。

雪の害から守る冬囲いは、個人の家の場合は観光用ではありませんので、簡単で枝や幹が雪の被害にあわない方法で十分です。

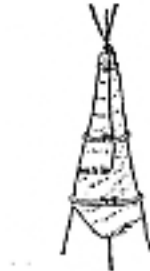


①ムシロは向かって後ろから斜めにあてがう

②ムシロの上かどを内側に折り、1〜2の順で着せる

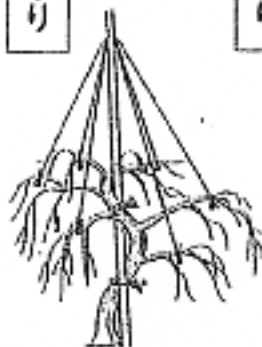


③上を先にしぼる



④ムシロを直しながら、2段目、3段目の順でしぼる

棒吊り



幹吊り



## 秋の庭作業

10月に入ると植物の紅葉（黄葉）が目についてきます。

紅葉（黄葉）がはじまると、まもなく落葉して休眠期です。

秋の庭作業は、このような時期をむかえての大切な作業の一つです。どうしたら庭木類が良い状態で越冬し、来年の生育期をむかえられるのかを考えながら秋の庭作業を進めることが大切です。

### ●秋の病害虫の防除

#### △庭の整理

枯れた庭木類、枝、葉、木の実、種子などは庭の中に残さず焼却処分か、他の方法で処分することを心がけること。

#### △農薬による防除

日中の温度が12℃～13℃になって庭木類が完全に休眠期に入るまでは、虫、病気それぞれに合った農薬を使って防除し、寒くなって完全に休眠期に入って、雪が降り出す前くらいまでの間は石灰硫黄合剤を使って防除するようにします。

### ●秋の剪定

△落葉するものは、完全に落葉し休眠期に入ってから剪定をおこないます。（春に剪定出来ないものが主体＝カエデ類、ハルニレ、カンバ類など）

△常緑のものは切りつめ剪定程度で終らせ、太い枝を切る強剪定は来春の3月下旬～4月上旬にかけておこないます。

△果樹類も来春3月下旬～4月上旬に強剪定をおこないます。

### ●冬開い

冬開いは降雪期に入ってからでも遅くありません。

常緑のもの（葉を落とさず越冬するもの）は、出来るだけ遅く作業をするようにします。温度の高い時期（10℃以上）に開うとムレにつながり枯れることがあります。冬開いは出来るだけ簡単におこなうと共に、雪の被害や寒さの害から守る程度の開い方でとどめるようにします。

雪による枝折れを防ぐための枝吊りは多少早めの作業でもかまいません。

## 10月の園芸作業

\* 露地・花壇・・・強い霜がきたら春植え球根の掘り上げと貯蔵、夏花壇の後始末、石灰を撒き堆肥入れて整地しておく。秋植えの球根で植え忘れていたものは出来るだけ早く植え込む。寒さに弱い宿根の花壇材料は親株を室内へ取り込む。

\* 鉢花・・・花の咲いている鉢物は小春日和の日中、ベランダ、玄関先などへ出して日光浴。下旬には冬眠に入る鉢物は耐寒性に応じて冬囲いをする。室内で越冬・鑑賞する鉢物は早く室内の環境に馴らすこと。葉形サボテンの仲間は水やりを控える。短日条件で花芽分化する種類は、夜間の照明に当てない。低温で花芽分化をする種類は水やりを控えて低温に馴らす。

\* 観葉植物・・・殆ど終日室内で管理する時期。室内の暖房はまだ本格的ではなく室温は低めで湿度は不足気味。光線は極端に少なくなる限り心配はない。本格的に暖房が入ったら室温の高過ぎに注意する。日中22℃、夜間10℃位が理想的。

\* 洋蘭・・・全て室内で管理する。デンドロビュームは涼しく乾かし気味に、シンビジュームで開花中の秋咲き種は低温で花が長持ちする。蕾の出始めている早咲き種、まだ蕾の見えない遅咲き種も16～18℃で管理すると良い。蕾の出ている株は直射日光を避ける。カトレアなど開花中の株は普通の灌水、古いバルブの基部に新芽が動き始めたら徐々に水やりの量を増やし、休眠中の株は乾かし気味に管理。低温性の種類以外は8℃以下で長時間過ごさせると弱る。

\* 盆栽・・・実物、紅葉する雑木類は鑑賞時期。涼しく湿度の高い場所で長持ちする。落葉した雑木類、松柏類は休眠の準備にはいる。実物で来年実をつけたいものは植え替えの時期。

\* 庭木・果樹・・・落葉樹では葉が落ち始める下旬には木の周りを清掃し落ち葉は集めて積んで置く。下旬には菰、藁、縄など冬囲いのための準備に入る。リンゴ、ナシなどの収穫後の追肥はカリ肥料を主体に施す。落ち葉の整理をして病害虫の発生を予防する。

## 11月の園芸作業

\* 露地・花壇・・・菊を残して殆どの草花は枯れる。雪の来ないうちに枯れた茎葉の始末をし、堆肥、石灰を散布し来春の作業に備える。

\* 鉢花・・・耐寒性のある山草・花木などの鉢物は雪の来ないうちに外で冬囲いをする。室内で冬を越す開花中の鉢物は、できるだけ日光に当てる。暖房が入る時期なので、日中と夜間の温度差は10℃位、最高温度は23℃を超えないよう置き場所を選ぶ。低温で花芽の分化をするクンシランは出来るだけ涼しく、ポインセチアは短日、カランコエ、ロケアなどは低温と短日・乾燥が花芽分化の条件なので前の月と同様注意する。ツバキ、ウメも芽が動かないように涼しい場所に取り込む。シクラメンなど店から買った鉢花は、いきなり暖かい所へ置くと部屋の環境に馴れないうちに弱るので注意。正月に花を見るスイセンなどの春咲き球根類は冷蔵庫から出して植え込み、15℃程度の低温で光をよく当てながら管理する。

\* 観葉植物・・・来春まで暖房の効いた室内管理。一番の大敵は部屋の乾燥した空気、室内の湿度に上手に馴らし、10日に一度は筆かガーゼなどで葉を拭いてやり時々霧を吹き付けてやる。種類に応じて日光を加減した置き場所を選んでやるとよい。

\* 洋蘭・・・温室やハウス、室内での管理。花芽の出来始めている株や蕾の発育中の株は、環境の変化を出来るだけ避ける。特に温度の条件が急激に変化すると花が咲けないことがあるので注意。デンドロビュームは中、下旬まで水やりを控え低温で管理。シンビジュームは日中20℃、夜間10℃位で蕾の発育がよくなります。カトレア、ファレノプシス、バンダは夜間の低温に注意する。

\* 盆栽・・・雪の来る頃から冬囲い。寒さに弱い種類は室や穴の中、寒さに強い種類は鉢を土中に埋めるくらいで雪の中で眠らせる。枝折れの心配があるものは支柱を立てるなどして保護。穴の中での冬越しは雪解け水が溜まらないよう配慮する。ネズミの害があるので要注意。

\* 庭木・果樹・・・木の大きさ、性質、耐寒性等に応じて支柱、枝吊り、菰巻き、地面に倒す、土中に囲う等の冬越しの作業をする。いずれも雪の来る前に作業を済ませるとよい。ブドウの剪定・夏下ろしは根雪になる直前頃が適期です。